

東芝テック(株)は、グローバルワンストップソリューション企業を目指すことを中長期ビジョンに掲げ、原価低減加速・生産性向上による安定収益体制の構築や、コアビジネスによる市場先行、ソリューション・サービス事業拡大の推進に努めています。また、リテール・プリンティングソリューション分野を中心に、お客様にとっての価値創造を原点とした差異化技術や商品、サービス、及びソリューションを提供するため、社内及び東芝グループが持つユニークな技術や商品との連携強化を図り、マーケットニーズにマッチした新商品の開発と市場投入に向けた取り組みを加速しています。

2017年は、(株)ジーユーから受注したRFID(無線ICタグ)一括読み取りセルフレジや、量販店向け新POS(販売時点情報管理)ターミナル、1台で消せる印刷と通常印刷が可能なハイブリッド複合機、複合機の組み込みアプリケーション開発プラットフォームと組み込みアプリケーション機能の強化、RFIDハンドリーダなどを開発するとともに、商品化しました。

ハイライト編のp.21に関連記事掲載。

執行役員 商品・技術戦略企画部長 江口 健

■ (株)ジーユーに納入したRFID一括読み取りセルフレジ

RFIDタグが付いた商品を、顧客自身でレジ登録から会計までできるRFID一括読み取りセルフレジを開発した。

この製品は、当社のコア技術であるRFID読み取り技術と、ユーザビリティに優れたセルフ端末を融合した製品であり、ボックス部に投入された複数の商品に付いたRFIDタグを、一括読み取り機構で漏れなく瞬時に読み取ることが可能である。

これにより、顧客一人当たりの精算に掛かる時間を大幅に(最大で1/3に)短縮できる。繁忙時の顧客のレジ待ち時間短縮と、店舗内の顧客の回転率向上が期待できる。



(株)ジーユーに納入したRFID一括読み取りセルフレジ

Self point-of-sale (POS) register with radio-frequency identification (RFID) collective reading function of G.U. Co., Ltd.

■ 量販店向け 新POSターミナル M-9000

様々なチェックアウトシーンに対応する、量販店向けの新しいPOSターミナル M-9000を開発した。

従来どおりのオールインワンタイプに加え、各周辺機器をユニット化することで、キーボードのないタッチタイプやセルフタイプなど、フレキシブルな構成を可能にした。制御部とフラットディスプレイが一体となった薄型筐体(きょうたい)を実現し、釣銭機などと連携した操作性を向上させた。また、プリンターとして従来の1.25倍の300 mm/sの印刷速度、レシートニアエンド検知、フルカット/パーシャルカットのソフト切り替え、稼働状態が分かるLED(発光ダイオード)搭載などに対応した。更に、2018年春のリリースに向けて、ディスプレイとキーボードが一体となったコンビネーションキーボードも開発している。



M-9000(オールインワンタイプ)

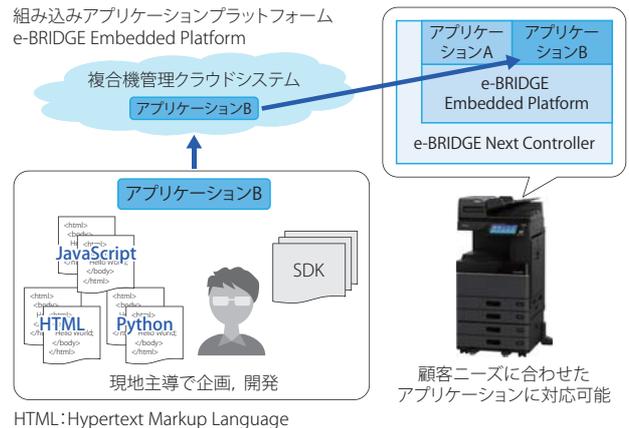
M-9000 all-in-one type POS terminal for retail stores

■ 複合機の組み込みアプリケーション開発プラットフォーム e-BRIDGE Embedded Platform/SDK

e-BRIDGE Nextアーキテクチャーを搭載した複合機に、組み込みアプリケーションプラットフォーム対応を行い、ソリューション開発キット (SDK) の提供とサポートプログラムの運用を開始した。主な特長は次のとおりである。

- (1) 外部サーバーが不要で、複合機上でアプリケーションが動作できるので、ドキュメントソリューションを簡便に提供できる。
- (2) SDKと汎用のWebアプリケーション言語を使用し、ソリューションアプリケーションを簡便に開発できる。
- (3) 運用中の複合機管理クラウドシステムを介し、アプリケーションの配信と管理が簡便にできる。

これにより、販売現地法人や外部パートナーによる顧客ニーズに合わせたアプリケーションの企画や短期間開発が可能になり、複合機のソリューション提供力が大きく強化された。



HTML: Hypertext Markup Language

e-BRIDGE Embedded Platform/SDKによるアプリケーション開発の概要

e-BRIDGE Embedded Platform/SDK to develop embedded applications for multifunctional peripherals (MFPs)

■ 組み込みアプリケーションによる複合機の機能追加と強化

e-BRIDGE Nextアーキテクチャーを搭載した複合機 (MFP: Multifunctional Peripherals) に対する新たな組み込みアプリケーションの開発と機能強化開発を行った。

原稿上のバーコードをスキャン時に認識し、読み取り画像のファイル分割やフォルダー振り分けを簡単に行えるアプリケーションなどを開発した。また、クラウドストレージ連携として、BOX™ クラウドストレージ用を開発するとともに、Google Drive™ や、OneDrive™、Dropbox™ などのクラウドストレージ連携に対しても、画像プレビューやセキュアPDF (Portable Document Format) 対応などの機能強化を行った。更に、印刷した用紙枚数の削減効果の見える化を行うアプリケーションの製品化も進めている。



JPEG: Joint Photographic Experts Group

MFP 組み込みアプリケーション e-BRIDGE PlusによるMFP機能拡張

e-BRIDGE Plus embedded applications to enhance MFP functions

■ RFIDハンドリーダ UF-2200シリーズ

流通・アパレル業などの在庫管理や、貸し出し/返却管理など、様々な用途で活用できる、UHF (Ultra High Frequency) 帯RFIDハンドリーダ“UF-2200シリーズ”の新モデルを開発した。主な特長は次のとおりである。

- (1) 高出力化で読み取り距離を拡大 読み取りエリアを7mに拡大することで、棚卸しの精度を向上させ、また、遠くのタグを読み取る高い読み取り性能を、独自の探索機能の精度向上技術により実現した。
- (2) 高速読み取り 高速読み取り機能を搭載し、600タグ/sを実現した。
- (3) スキャナー搭載で適用業務範囲を拡大 スキャナーを搭載することで、様々な業務でも適用可能にした。



RFIDハンドリーダ UF-2200シリーズ
UF-2200 series RFID handy reader